



有無をせぬひとごとに
平等覺じ聲(品)わむ

解脱の光觸(せゆつ)せゆるし 光触かふゆむせゆる

勝林寺報



間の未熟な根性は100年たつても少しも成長できなかつたようです。

仏教はみな解脱することを目指します。しか

し人は自分が可愛く、自分を守り、壁を作ります。壁の中に多くを取り込み、壁の外を見て内

にいるものがあれば欲しがり、妬み、奪い、よ

り壁を頑丈に守ります。親鸞聖人もそんな人間

の本性、煩惱を嘆き、嘆いてもなお捨てきれな

いわが身を“煩惱具足の凡夫”として悲しまれ

ました。人として自分の大切なものを保ち守ろ

うとする方向と、壁を乗り越えて新しく改革し

て、いこうとする方向の流れは、現実社会の中で

も大きく揺れ動きながら世界を揺さぶっています。

むちらにしても、今生の娑婆世界では右か

左か、善か悪か、有るか無いかに縛られ

て、一向に脱することができます。ますます自ら

の殻に引きこもるばかりです。この呪縛を解き

放つ唯一の手立てが念佛です。念佛によって阿

弥陀様の光に触れ、往生する。そこではアメリ

カも中国もBlackもYellowも、美も醜もなく、

みな平等に存在する淨土の喜びがあります。

人はそのお淨土に対しても、有るのか無いの

か言い争い、自己主張を重ねようとなります。し

かし、私の師である信楽峻麿は、淨土は象徴だ”

と言ひ切られていました。そして亡くなられる

数日前に“また淨土で会おう”と私の手を握つ

て語られました。解脱の光明に照らされた、有

無を離れた淨土の実感がそこにあつたように思

います。

その流れはなぜか国家間・民族間の対立をより

深めていく方向に流れているようです。なぜ人

類滅亡の脅威であるウイルスを目の前にして人

はなおも対立するのでしよう。100年前に流

行したスペイン風邪のパンデミックから始まつ

た世界大戦の過ちを人はまた繰り返すのでしょ

うか。ワクチン開発も競争し“誰よりも早くい

い席でいい景色が見たかったんだ”とノーベル

葬儀
七月三十日

正法寺 数森浩昭様 六十歳

出合 生田良子様 八十八歳

ご案内

秋季彼岸会

九月 勝林寺 予定

| | |
|---------|---------------|
| 一日 (火) | 本堂床下 シロアリ予防施工 |
| 六日 (日) | 玉井輝彦宅 100回忌 |
| 八日 (火) | 生田善七宅 参七日 |
| 一五日 (火) | 生田善七宅 四七日 |

| | |
|----------|--------------|
| 二〇日 (日) | 平野睦美宅 七・一三回忌 |
| 二一 日 (月) | 川見祐枝宅 七回忌 |
| 二二日 (火) | 秋彼岸会 |

| | |
|--------------|------------|
| 九月二二日 (秋分の日) | 午後 一時より |
| 二七日 (日) | 生田善七宅 聖明法要 |

| | |
|---------|-----------|
| 二六日 (土) | 富島義明宅 一周忌 |
| 二九日 (火) | 斎藤貴明宅 一周忌 |

合同役員会

| |
|---|
| 八月に急激に感染が広がり、警戒レベルが引き上げられた兵庫県ですが、先日レベルの引き下げが宣言されました。十分な感染予防対策を講じたうえで、彼岸会をお勤めさせていただきます。なお、当月までに、状況が変わることも考えられますので、その時は、別途連絡させていただきます。」「了承ください。 |
|---|

みのりを聞く会

| | |
|---------|------------|
| 二七日 (日) | 生田善七宅 聖明法要 |
| 二九日 (火) | 斎藤貴明宅 一周忌 |

お葬儀

| |
|---|
| 八月八日、コロナウィルスの感染拡大により、各教化団体の長と遺族代表のみの参加とさせていただきました |
| で、肅々と勤めさせていただきました。 |

| |
|--|
| 導師は、永代経に引き続き若院が務め、住職はライブ配信に関わる機器の操作と法話、坊守は喚鐘と戦没者呼名をそれぞれ担当しました。 |
| 毎年、百四名のお名前を読み上げるという大役を務めながら、いろいろなことを思います。 |

| |
|---|
| 今年は、戦後七五年の節目の年でありましたので、テレビや新聞でいつも以上に戦争に関する多くの情報を目にしたせいでしょう。 |
| こんな疑問が起きました。「どうして戦争をしたのだろう。もしも戦争をしなかつたら、どんな日本になつていたのだろう。」 |



(敬称略)

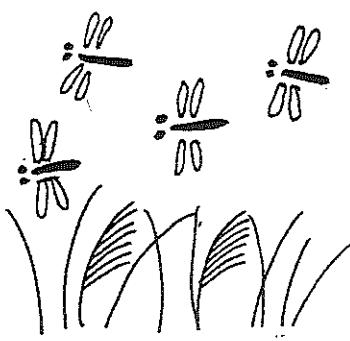
全戦没者追悼法要を

お勤めしました

| |
|---|
| 八月八日、コロナウィルスの感染拡大により、各教化団体の長と遺族代表のみの参加とさせていただきました |
| で、肅々と勤めさせていただきました。 |

| |
|--|
| 導師は、永代経に引き続き若院が務め、住職はライブ配信に関わる機器の操作と法話、坊守は喚鐘と戦没者呼名をそれぞれ担当しました。 |
| 毎年、百四名のお名前を読み上げるという大 |

| |
|---|
| 今年は、戦後七五年の節目の年でありましたので、テレビや新聞でいつも以上に戦争に関する多くの情報を目にしたせいでしょう。 |
| こんな疑問が起きました。「どうして戦争をしたのだろう。もしも戦争をしなかつたら、どんな日本になつていたのだろう。」 |



*二〇一五年二月より五年半にわたり掲載させていただいた「信楽俊磨遺稿法語集」は先月で最終回となりました。今月より、先生の著書「真宗入門」(昭和五二年刊行)を掲載させていただきます。紙面の都合で、内容が途切れることがあります。あるかと思いますが、お許しください。

人生を思う

こうるの姿勢



今日の日本における文明は、まことにめざましい発展をとげてきましたが、その一つに道がりっぱになってきたことがあげられます。世界に誇る新幹線が日本列島を長く走り、つぎつぎと高速道路がつくられています。また都会はもとより、田舎の道路に至るまでもきれいに整備されきました。だが、このように電車や自動車の走る道はだんだんりっぱになつてきましたが、それに比べて、人間の歩く道はしだいにせばめられてきたようです。ことに都会に住んでおりますと、車道はあつても人道はなくなつていくという感じがいたします。最近では、やたらと人道に自動車がとめてあり、時には人道を自動車が走ることもあります。だんだん人間の歩く道がなくなつてきた、あるにはあつても実際には歩きにくくなつてきた、というものが、今日の日本の道路状況のようあります。

そのことはまた、私たちの日常生活において、人間としての歩むべき道がなくなつてきた、歩きにくくなつてきた、といふことにも共通する問題でありましょう。現代の人々の生き方は極めて多様化しております。みんながそれぞれの道を勝手に生きているという感じです。大人と若

者のズレ、親と子の断絶などは、いずれもこのような人間の道にかかる問題のようになります。世の中は多様です。人間のも当然のことです。しかしながら、その生きる道がどれほど多岐にわかれようとも、そのもつとも根本のところでは、親にも子にも、私にも他人にも、誰にでも共通するところの、「人間として」の道があるのではないかでしようか。そういう根本のところでの人間の道が見失われ、それがなくなっているところに、現代における深刻な問題があるように思われます。先日京都の街を歩いておりましたら、ある小学校の校庭に、今もなお薪を背負つた、少年二宮金次郎の像がおかれていました。私のような戦前の小学校教育をうけたものにとっては、「柴刈り縄ない草鞋をつくり・手本は二宮金次郎」という唱歌とともに、思い出深い像ですが、どういう意味を持っているのでしょうか。

親鸞聖人の『正像末和讃』「愚禿悲歎述懐讀」の中に、私の心は正に蛇や蝎のたとえ示されるように、他人を傷つけてしまった。私のような戦前の小学校教育を

うけたものにとっては、「柴刈り縄ない草鞋をつくり・手本は二宮金次郎」という唱歌とともに、思い出深い像ですが、どういう意味を持っているのでしょうか。まさかこれがいまもなお、小学校教育のめざす理想像ということではないでしょうか。取りかえるものも見あたらないままに放置してあると思われます。現代における小学校教育の目標の混乱、ないしはその形骸化の一端が、ここに指摘され得るようです。そして、このことは、ただに小学校教育の問題だけではなく、今日の日本社会の全体に通じる人間の生きざまにかかわる問題であると思われます。

と述べられています。

親鸞聖人の『正像末和讃』「愚禿悲歎述懐讀」の中に、私の心は正に蛇や蝎のたとえ示されるように、他人を傷つけてしまった。私のような戦前の小学校教育をうけたものにとっては、「柴刈り縄ない草鞋をつくり・手本は二宮金次郎」という唱歌とともに、思い出深い像ですが、どういう意味を持っているのでしょうか。まさかこれがいまもなお、小学校教育のめざす理想像ということではないでしょうか。取りかえるものも見あたらないままに放置してあると思われます。現代における小学校教育の目標の混乱、ないしはその形骸化の一端が、ここに指摘され得るようです。そして、このことは、ただに小学校教育の問題だけではなく、今日の日本社会の全体に通じる人間の生きざまにかかわる問題であると思われます。

と述べられています。

親鸞聖人の『正像末和讃』「愚禿悲歎述懐讀」の中に、私の心は正に蛇や蝎のたとえ示されるように、他人を傷つけてしまった。私のような戦前の小学校教育をうけたものにとっては、「柴刈り縄ない草鞋をつくり・手本は二宮金次郎」という唱歌とともに、思い出深い像ですが、どういう意味を持っているのでしょうか。まさかこれがいまもなお、小学校教育のめざす理想像ということではないでしょうか。取りかえるものも見あたらないままに放置してあると思われます。現代における小学校教育の目標の混乱、ないしはその形骸化の一端が、ここに指摘され得るようです。そして、このことは、ただに小学校教育の問題だけではなく、今日の日本社会の全体に通じる人間の生きざまにかかわる問題であると思われます。

以前勤務していた職場の後輩が病に倒れたと聞き、心がざわつきました。幸い、すでに退院

して自宅療養をしていること

が分かったので、今が旬の大好

きな「豊岡ぶどう」をお見舞いに送りました。

が分かったので、今が旬の大好